

2014.1  
第154号

# 看護かごしま



薩摩川内市 人形岩

写真協力:公益社団法人 鹿児島県観光連盟

平成25年度  
鹿児島県看護協会会員数

保健師	444人
助産師	331人
看護師	9,483人
准看護師	967人
合計	11,225人

平成25年12月16日現在  
※前年同月より 325 人増となっております。

## Contents

会長・副会長 新年のごあいさつ .....	2
理事 新年のごあいさつ .....	3~4
研修会のごあんない .....	5
ファースト・セカンドを終えて .....	6
看護協会入会に関するアンケート結果報告 .....	7
オイDONが病院 .....	8
協会からのおしらせ .....	9
ワークライフバランス .....	10
心に残る看護体験 .....	12
ナースセンターだより .....	14
理事会報告 .....	16



## 新年のごあいさつ

会長 平川 涼子

新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

皆様には、昨年中、ご支援・ご協力いただき深く感謝申し上げますとともに、本年もどうぞよろしくお願い致します。

さて、職場で新年を迎えられた方も多いと思います。私も現職時代よく正月勤務を致しました。昔は、年末年始の長時間勤務もありましたが、新たな年に変わる瞬間を仕事しながら迎えることは貴重な体験で、しかも、普段より静かな病院で患者様達とゆっくりと時間を共有する楽しみがありました。最近はこうもいかないのでしょうか・・・。

平成26年は診療報酬改定の年です。病院の機能強化・機能分化をはじめチーム医療の推進、医師・看護職確保、労働環境の改善等が盛り込まれると思います。本年も県民や会員の様々なニーズにこたえられるよう事業を計画・実施してまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。



副会長 原田ゆう子

あけましておめでとうございます。

これからの時代、県内全域の医療施設や在宅などの場で、保健・医療・福祉をつなぐキーパーソンとしての役割を期待されているのが看護職です。副会長として日々感じていることは、県内各地で働いている看護職の皆様方の素晴らしい活動があってこそこの県看護協会であるという事です。今年もWLB推進委員会活動等を通じて、看護職が生き生きと働き続けられる環境づくりを模索していく年となりそうです。



副会長 向窪世知子

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、日本看護学会「老年看護」の実行委員長を務めさせて戴き、皆様からの多くの御支援の下、会員一体となった公益社団法人として県民の期待に応える鹿児島県看護協会を示せたのではないかと思います。

少子高齢社会を見据えた国の方針として、患者の流れに沿った看護の連携の必要性が示されています。今年度は、高齢化率の高い本県から発信できる、保健・医療・福祉の実態に沿った看護の役割拡大に取り組んでいきたいと思っております。





# 新年のごあいさつ



専務理事 宮蘭美恵子

常任理事 加治屋伸子

明けましておめでとうございます

旧年中は大変お世話になりありがとうございました。

鹿児島県看護協会にとりましては、昨年は、新たに 11 名の名誉会員が通常総会において承認され、合わせて 12 名となり、組織として更に発展する礎ができたところです。また、様々な新規事業にも取り組んでまいりました。

今年も、会員の皆様にとっても、県民の皆様にとっても頼れる存在となることができるよう努めてまいりますので、御協力をよろしくお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

保健師職能理事 東郷令子

明けましておめでとうございます。

昨年は、地区担当制の推進、統括保健師の配置、人材育成等についての保健師活動指針が新たに局長通知として出されました。

保健師は、公衆衛生看護学を基盤として、地域住民の健康とQOLの向上のために予防活動も含めた地域保健活動を展開しています。

1月25日(土)「語り継ごう保健師活動」～保健師活動をつなぐための企画力や政策力を高めるための研修会を開催します。ぜひご参加ください。

\*\*\*\*\*

看護師職能理事Ⅰ 赤崎えり子

新年明けましておめでとうございます。

26年度の診療報酬改定の準備いかがでしょうか。

看護師職能委員会Ⅰ病院領域では、Ⅱがスムーズな委員会活動が図れるよう、連携・合同委員会を行い、後期に分化へと至っています。さて、病院現場の労働環境改善では、「夜勤・交代制勤務に関するガイドライン」の活用をされましたか。看護職自身の働き方を見直し、労働環境改善の工夫も求められます。一つでも、できることからすすめましょう。

本年度も、よろしくお願い致します。

\*\*\*\*\*

鹿児島地区理事 長田いつよ

会員の皆様には謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年も皆様にとって素晴らしい年でありますようお祈り申し上げます。

鹿児島地区活動につきましては、格別のご支援、ご協力を賜りまことにありがとうございます。おかげさまで、平成25年度の地区事業計画は順調に実施できております。また、鹿児島地区会員数は5,539人で、平成25年度の目標値を上回りましたが、入会率は就業者数の約45%です。今後も、看護協会の組織強化に取り組んで参りたいと思います。

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、日本看護学会を盛会に終えることができ、皆様にあらためて感謝申し上げます。先般、日看協会議で、学会で好評を得たこと、工夫したこと、課題等報告してきました。どの開催協会からも、大変だったがやってよかったという充実感と達成感が伝わってきて、共感することが多かったです。鹿児島で、また開催しましょう！

今年も、午年です。鹿児島県看護協会が組織として、さらに飛躍することを会員の皆様とともに目指したいと思っております。今年もどうぞよろしくお願い致します。

\*\*\*\*\*

助産師職能理事 吉留厚子

新年おめでとうございます。平成25年の助産師職能活動は「新人助産師合同研修」を開始しました。講師は助産師のみではなく、新生児集中ケア認定看護師、感染管理認定看護師、産科医師とそれぞれの専門分野が関わっていただきました。また、「鹿児島県のお産を守ろう」の研修では、人事交流、出向制度等の報告があり、活発な意見交換ができました。今後も、助産師職能委員と協会員が協同し、助産能力の向上に貢献できるよう努めたいと思っております。

\*\*\*\*\*

看護師職能理事Ⅱ 冨吉奈美子

新年 明けましておめでとうございます。

看護師職能委員会Ⅱは、介護・福祉関係施設、在宅等領域で働く看護職の現場の意見を集約し、現状と課題を明確にし、発信していきたいと思っております。

また、看取りケアを含め看護の質向上、働き続けられる職場環境作りに向けて事業内容をすすめていきたいと思っております。今年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

南薩地区理事 服部郁代

平成26年の新年を迎え、地区の皆様には謹んでお慶びを申し上げます。地区長として、不十分な点多々あり会員の皆様には、色々ご迷惑をお掛け致しました。皆様のご協力もあり何とか今までやってこられた次第です。昨年からの委託事業としての新人看護師研修も、多くの施設から参加頂き有意義な研修会となっております。今後も専門職として自律し行動できるよう、お互い刺激し合い質の高いケア提供を目指し努力していきたいと思っております。また看護協会入会の促進も行なっていきたいと考えております。本年も皆様のお力をどうぞ宜しくお願い致します。



# 新年のごあいさつ



川薩地区理事 深川俊子

出水地区理事 淵上淳子

新年明けましておめでとうございます。新地区長として協会活動に参画させていただき、川薩地区の会員さまや地域住民の方と触れ合う機会を多く持てました。地区が抱える問題点は看護師確保に苦労していることや会員数が32.9%と低いことです。良い面はワークライフバランスに取組み、成果をあげている施設が多いことです。今年も看護の仕事に誇りを持ち、働き甲斐のある職場作りをすることと、地域ケアサービスに貢献できる地区活動をしていきたいです。

新年 明けましておめでとうございます。地区長として2年目の活動を、皆様の御協力のもと、教育及び公益事業とネットワーク事業も計画どおりに実施できておりますことを心より感謝申し上げます。また、会員数増加の課題もあり、今年は施設訪問など、地区が団結し一丸となって取り組んでいけるよう、微力ではございますが活動を続けてまいります。今年も、各事業への参加とご協力の程よろしく申し上げます。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

始良伊佐地区理事 松枝 文子

大隅地区理事 牧之瀬小代子

2014年明けましておめでとうございます。会員の皆様の幸福で希望に満ちた年になりますようお祈り申し上げます。今年には診療報酬の改定や在宅ケアへの重視など看護・福祉に係る影響も大きく、大変なことも多いかと思えます。しかし、私たち看護協会員一人ひとりが地域に住む目の前にいる人々のケアを考え、実践していくことが大事だと思います。しかし、一人では弱いし、よいケアもできません。始良伊佐地区での会員相互の交流を深め、理解しあい、地域に看護・医療福祉に携わる専門職としての力が発揮できるように絆の強いチームワークで努力していきたいと思えます。今年もよろしく申し上げます。

新春を迎え、会員の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。また、皆様方には日頃より、地区の活動にご協力・ご支援を賜りこころより感謝申し上げます。昨年は、地区にて新人看護職員研修事業や再就業支援セミナーの2つの新しい事業を開催することができました。この事業の講師派遣や実習を受け入れて頂きました施設の方々に感謝申し上げます。今年も、地区の組織の強化と看護の質の向上に向けて取り組みたいと思えます。会員の皆様、今年もよろしくお祈りいたします。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

大島地区理事 仁添 絹子

准看護師理事 永田 清美

新年 あけましておめでとうございます。あっという間に平成25年が過ぎてしまいました。一年を振り返りますと、公益事業は計画どおりに実施、教育研修は、予定していた研修が台風の影響で延期となっています。慣れない地区長という大役も副地区長・各委員長・各委員のみなさんに助けられながらやっています。今後も地区事業が計画どおりに実施することができるよう会員の皆様のご協力をお願いいたします。

新年 明けましておめでとうございます。「健康で安全に働き続けられる職場環境づくり」をめざし、准看護師のスキルアップ・看護技術と知識の向上・進学支援への情報提供を目標に活動を行っております。また、看護協会への入会推進も課題となっております。自分自身の課題と受け止め、微力ながらではありますが、活動を続けてまいります。本年も、よろしく申し上げます。



鹿児島県看護協会 理事 17名

## 研修会日程変更のお知らせ



### 褥瘡ケアの基礎 (大島地区)

台風接近のため延期となっていました。都合により今年度は中止させていただくことになりました。御迷惑をおかけしますが、御了承くださるようお願いいたします。

### 看護倫理

講師の都合により下記の日程で開催することとなりました。

開催日：平成26年3月3日(月) 10:00~16:00

ねらい：看護倫理の基礎知識及び看護実践の場における倫理の諸問題について学び、看護者としての支援を考える。

募集期間：2月1日~2月15日

### 看護管理者研修会

延期となっております看護連盟共催「看護部長研修会」は下記の通り内容を変更して「看護管理者研修会」として開催することになりました。

開催日：平成26年3月1日(土) 13:00~16:30

募集期間：2月1日~2月15日

目的：特定行為に係る看護師の研修制度と看護実践について学ぶ

対象者：看護管理者(看護部長~看護師長、認定看護師)

講師：日本看護協会 常任理事 洪 愛子 先生

北野病院 看護管理室 中山 法子 先生

内容：看護協会・看護連盟の活動について  
特定行為に係る看護師の研修制度について  
理解しよう

看護師の能力認証に関する制度を活かした  
看護実践

看護部長情報交換会

## 新規研修会のお知らせ

鹿児島県からの委託を受け、認知症に関する研修会を下記の通り実施することとなりました。



### 一般病院医療従事者認知症対応力向上研修

目的：認知症の人や家族を支えるために必要な基本知識や医療と介護の連携の重要性、認知症ケアの原則等の知識を習得するための研修を実施することにより、病院での認知症の人の手術や処置等の適切な実施の確保を図る。

開催日：平成26年1月12日(日) 10:00~11:50

平成26年1月12日(日) 13:00~14:50

※同じ内容で午前・午後の2回実施します。

対象：一般病院に勤務する医師、看護師等医療従事者

内容：認知症の人への対応~基礎と考え方~

講師：愛と結の街 施設長 黒野明日嗣 先生

### 一般病院看護職員リーダー研修

目的：認知症の人への対応方法等について、事例検討等を通じて実践的な技能を習得し、一般病院での認知症ケアの質向上を図る。

開催日：平成26年1月30日(木) 10:00~16:00

対象：一般病院内で看護の指導的役割を担う看護師

内容：講義・事例検討

講師：社会医療法人製鉄記念広畑病院

老人看護専門看護師 森山祐美 先生

## 研修報告



### 第1回在宅医療・ターミナルケア人材育成事業

#### エンド・オブ・ライフ・ケア研修会 を開催しました。

12月14日・15日に鹿児島県の地域医療再生臨時特例基金の補助を受けて、今年度はじめて看護協会で「エンド・オブ・ライフ・ケア(以下、ELNEC-J)研修会」を開催しました。

在宅や病院及び施設等でエンド・オブ・ライフケアに関わる看護職員を対象に募集したところ、定員60名に180名を超える申し込みがあり、1施設1名の96名に定員枠を拡大して研修を行いました。医療機関64名・介護施設22名・訪問看護ステーション8名、学校1名と急性期から施設まで幅広い看護の各領域の方が一同に学べたことは意義深いものでした。朝9時~18時30分(2日目17時)「M1:エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護」等モジュール1~10全課程を学ぶという非常に中身の濃い、充実した2日間で、ロールプレイやケーススタディを通して、あらためて、一人ひとりの人生に寄り添えるようなケアを目指したいとの声を多くいただきました。

淀川キリスト教病院の田村恵子先生はじめ県内のELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム指導者の方々からとても深い学びをさせていただきました。

今回参加いただいた方の感想を一部紹介します。

『辛く苦しい人生を背負い高齢になった入所者が「生きていてよかった」と感じてもらえるようなケアの提供をめざし、院内の教育に取り入れ、実践したケアについて語り合える場を設けていきたいと思う。』



# 平成 25 年度認定看護管理者 ファーストレベル・セカンドレベル 教育課程が終了しました。

平成 25 年度から上記教育課程は、カリキュラム基準の変更に伴い教科目、時間数、単元等の見直しを受け、開講の運びとなりました。11 月中旬には両課程（ファーストレベル教育 159 時間、セカンドレベル教育 198 時間）を無事に終了することができましたので、その成果を受講生のアンケートをもとに報告します。

## 【ファーストレベル教育課程】

ファーストレベル教育は 63 施設から 85 名の申込がありました。54 名の採用となりました。うち、看護師長 25 名、副看護師長 15 名、主任 10 名などで、平均年齢は 43.6 歳でした。受講終了後、当初の課題の解決がはかられた方は 51 名、新たな課題が見つかった方も 51 名でした。また、全員が同僚にこのファーストレベル教育を受けて欲しいと思っていました。その理由として①管理者としての自覚が出てくる、②早い時期に学び、管理者としての役割を果たすべき、また、組織への貢献度も違ってくる、③自己学習には限界がある等でした。次に、セカンドレベル教育に挑戦したいかの質問に、「はい」10 名、「いいえ」11 名、「その他」32 名でした。理由として、①ファーストレベル教育の学びを生かしたいのでまだ先、②考えられない、③覚悟ができていない、④上司から言われたら考える、などでした。

受講後の感想として、①「管理とは」を理解することができた、②覚悟を決めて取り組んでいきたい、③必要な知識・技術、現在の医療に関する情報等学び楽しかった、など心強い意見が寄せられていました。

次はセカンドレベル教育にチャレンジして欲しいと思います。

## 【セカンドレベル教育課程】

受講生 28 名は、看護管理実践計画書を作成・発表してセカンドレベル教育を終えました。各自の課題を解決するために、悪戦苦闘しながらまとめ上げた計画

書に愛着を覚えながら、すでに来年のフォローアップ研修に目が向いていました。カリキュラムに満足し、全国レベルの講師陣に満足し、仲間に満足し、鹿児島県の看護を盛り上げていきたいという、強い意気込みが感じられました。

受講生は看護部長・副看護部長、看護師長の任にある 28 名で平均年齢 48.1 歳でした。受講にあたって上司、同僚、スタッフの大きな支えがあったことに感謝し、任せた本人も任されたスタッフも共に成長できた機会であったようです。

受講料に関しては、16 名が全額施設負担、9 名が全額自己負担、3 名が半額自己負担となっていました。受講料に見合った十分な学習効果が得られたようです。このセカンドレベル教育は管理者に必要な学習であり、管理者、看護師長・副看護師長にも是非進めたい、県内のネットワークが広がる大きなメリットがあると強調していました。

次は、サードレベル教育への挑戦ですが、興味はあるが能力・経験不足、今は考えられない、年齢的に次の世代に譲りたい、学びたいが体力・気力がもつ不安という回答があった反面、機会があればチャレンジしたいという前向きな回答もありました。

両課程を終了された受講生の皆さまは、今後の鹿児島県の看護界を担う人材です。活躍を期待しています。

私達担当者も、受講生とともに過ごした貴重な時間、アンケート結果を次年度の教育に生かしていきたいと思っています。

(教育担当： 有村京子 上原充世)



ファーストレベル受講生

# 看護協会入会に関するアンケート結果報告

本協会では、組織強化・拡大に向けて、入会の促進を図るためにさまざまな取り組みをおこない、3年間で1500人の会員増を図り、平成27年度までに加入率40%にすることを目標に挙げています。

この度、加入促進を図る一助にするために、県内の部長および平成24年9月から25年2月に加入された会員の皆様に、入会の動機等に関するアンケート調査を行いました。その結果がまとまりましたので御報告いたします。御協力ありがとうございました。

## 【新会員】

平成24年9月1日～平成25年2月末までに入会した新会員334名に調査表を発送したうち8名からは返送されてきました。回収は61名で、回収率18.3%でした。

新会員の年齢は、年代は20代:21名、30代:20名、40代:15名、50代:3名でした。

看護協会を知っていた方は59名、その時期は就職してから37名、学校の授業で15名、広報誌・その他が7名でした。

表1 入会動機（複数回答：上位8項目）

看護師長の勧め	21
専門職能団体の一員	15
就職したら自動的に加入	15
看護部長の勧め	14
看護協会主催の研修の多様性	11
専門資格に繋がる研修を受講できるため	10
看護職賠償保険加入のため	9
採用時オリエンテーションで	9

入会動機については、①看護部長・看護師長の勧め、②専門職能団体の一員、③就職したら自動的に加入、④看護協会主催の研修の多様性などでした。

会費の負担については、協会費・入会金とも6施設が一部負担、53施設は、自己負担でした。

協会費・入会金とも53名が自己負担でした。

また、入会の勧めで効果のあった声かけとして、①賠償責任保険制度への加入、②協会主催の研修受講時の特典、③職場・就職先が変わっても会員としての絆・仲間意識、④職能団体であり、診療報酬要件に反映し看護職の地位向上や労働条件の改善に反映するなどでした。

協会費および入会金を一部負担している施設は1施設で他は自己負担でした。支払い方法として、病院で給料引き積立:11施設、看護部・病棟で積立:2施設、他は納入時に一括納入していました。

現在、平成26年度の入会申し込みを受け付けています。調査に御協力いただいた会員の皆さまおよび看護部長さん方の声を入会促進の参考にして頂けたらと思います。

なお、本会の会員の状況につきましては「看護かごしま10月号」の12ページに掲載しておりますのでご覧ください。

## 【看護部長】

メーリングリストを利用し76名に配信し、39名より回答が得られ、回収率は51.3%でした。

表2 看護協会入会を勧める時期（複数回答）

職員になる時点で協会活動の説明と入会の勧め	25
新人研修の中で協会の説明と入会の勧め	23
協会主催の研修申込時に入会の勧め	17
看護師長を活用して入会の勧め	9
協会活動推進委員会を設置し協力をもらう	1
その他	6

看護部長さん達は、①入職時、②新人研修時、③協会主催の研修申込時などに協会活動の説明を行い、同時に入会を勧めていました。

表3 看護協会に入会を勧めている理由（複数回答）

看護協会主催の研修の多様性	36
専門職能団体であるため	33
国の動きや看護の動き等の情報を得やすい	27
専門資格に繋がる研修を受講できる	26
その他	5

入会を勧める理由として、①看護協会主催の研修会の多様性、②専門職能団体である、③国や看護の動向等の情報を得やすい、④専門職に繋がる研修の受講などでした。

## ＊ 平成26年度 看護協会入会受付が始まりました ＊

- ◇ 会員期間 : 平成26年4月1日～平成27年3月31日
- ◇ 平成26年度会員証の送付は、3月以降となります。  
施設にお勤めの方は、入会手続きされた施設へ会員代表者様宛にお送りいたします。  
個人会員の方は、登録されている住所へお送りいたします。  
施設異動、改姓、紛失による会員証の再発行は行っておりませんのでご了承ください。
- ◇ 平成26年4月1日から会員特典等サービスを受けられますよう入会手続きは、お早めにお願いたします。

詳細につきましては、鹿児島県看護協会のホームページ（<http://k-kango.jp>）をご参照下さい。



枕崎市立病院は、日本一の「かつおのまち」として全国でも有数の港町である枕崎市にあります。薩摩半島の西南薩に位置しており、風光明媚な自然に囲まれ、「太陽とかつおのまち枕崎」で、魚介類はいずれも新鮮で美味しさは有名です。昨年、枕崎市立病院として開設してから60周年を迎え、また新館が完成しました。

枕崎市立病院の役割として、枕崎市の中核的病院として機能の構築を図り、民間医療機関で対応困難な大規模災害発生時や感染症等対応病院としての機能を担うとともに市の健康事業に積極的に参画し、他施設との協力・連携により市民の健康増進に貢献していくことがあります。枕崎市立病院の理念は地域医療に貢献し、住民に信頼され安心して医療を受けられる病院を目指しています。当院は内科を標榜しており、病床数は、一般20床（10対1看護）・医療型療養34床・介護型療養1床の計55床です。

先進医療の一つである低温サウナ室（和温療法）をいち早く取り入れて、慢性心不全・閉塞性動脈硬化症患者さんの治療に取り組んでいます。また高齢の入院患者さんの退院支援に対しては、地域連携室は設けず病棟で、受け持ち看護師を中心に、家族・ケアマネージャー・理学療法士・薬剤師・栄養士・外来看護師などで、退院調整カンファレンスを行い、スムーズな在宅医療への移行を図っています。そして超高齢の患者さんが、可能な限り在宅で暮らせるように、訪問診療や訪問看護に取り組んでいます。

また枕崎市には小児科が一施設のため、隔週で小児診察日を設け軽症の小児の入院も受け入れています。院内の委員会（医療安全対策・感染対策・褥瘡・接遇・NST）においては、看護助手を含む全ての職種が、各委員会に所属

し活動しています。看護部の理念として「真心・安心・シームレス」を掲げて、思いやりのある安心安全な看護を、切れ目なく提供することを目標にしています。本年度は固定チームナーシングの充実を図るため、「現状分析から始める小集団活動」に取り組み、看護師は5G、看護助手は3Gの小集団を作り、日々取り組んでいます。今後は、2025年には65歳以上が42%と超高齢化していく枕崎市で、患者さんが住み慣れた家庭や地域で療養することができるように、支える医療と看護の提供に努めていきたいと思っています。その為にも地域包括ケアやシステムについての研修を、継続教育に取り込み、職員のキャリアアップに向けて取り組んでいきたいと考えております。

執筆者 総看護師長兼療養病棟看護師長  
川上百合子



患者さんと職員のバイキング「バラ寿司」

次の病院紹介は、7月を予定しています。  
お楽しみに！



おし  
らせ

## 1

**平成 26 年度 通常総会から役員等の選出方法については、改選数と候補者数が同数の場合は、選挙によらない方法を採用することとしました。**

役員及び推薦委員の選出については、本会においては、定款施行細則第 11 条「正会員の中から総会において出席正会員が選挙する。」に基づき対応してきたところです。しかしながら、平成 25 年 4 月 19 日付けで、都道府県看護協会会長あて、公益社団法人日本看護協会総務局長から、「社員総会における委任状等の取扱いについて」が届き、「役員を選出を投票により実施しなければならない場合には、出席した会員が有する議決権及び代理議決権数に応じた投票用紙を配布しなければならない（以下略）」とあり、平成 25 年 5 月 25 日開催した総会における役員等の選挙については、この文書に基づく対応を行ったところです。平成 25 年度は、出席会員 1 名が、最も多い人で 173 名分の委任を受けていました。投票用紙を 10 名分と 1 名分の議決権数に色分けするなどして、出席会員の負担軽減等に努めましたが、事務局・選挙管理委員ともに、周知・投票用紙の配布等業務負担が大きく、また、総会出席者全てに待ち時間等負担をかけることになりました。

そこで、改選数と候補者が同数の場合は、選挙によらず、挙手でできるよう定款施行細則の改正が理事会において承認されましたのでお知らせします。

おし  
らせ

## 2

**消費税率引き上げへの対応**

- ①平成 26 年度から、地区だよりを、県看護協会の機関誌「看護かごしま」に統合することとします。
- ②平成 26 年度から、県看護協会の総会要綱及び地区集会要綱を、会員すべてではなく、個人会員は全員、勤務先のある方は、希望数配布することとします。

平成 26 年 4 月から消費税率が 3% 上がります。これに伴う本会の新たな支出を積算しましたところ、140 万円程度支出が増えることとなります。

研修会受講料の値上げを検討しましたが、3% に呼応しますと、上げ幅がそれほど多くなく、むしろ釣銭等に手間がかかることや、会員からも研修会の受講料を安くできないかと声（本県の一般研修の会員 2,000 円は、九州の中では安い方ですが）もあることから、受講料は据え置くこととしました。

その対応として、上記①・②で対応いたしますのでご理解をよろしくお願いいたします。

おし  
らせ

## 3

**桜島火山爆発総合防災訓練に参加して**

抜ける様な青空に被われた 11 月 24 日曜日。『桜島火山爆発総合防災訓練』に災害支援ナース 16 名、専務理事、災害看護検討委員 6 名の計 23 名が参加しました。

朝 8 時 20 分に県看護協会会館に集合し（一部現地集合）、桜島フェリーを利用し避難所に指定された鹿児島市高齢者福祉センター東桜島に向かいました。現地到着直前には桜島が噴火し、モクモクと黒煙を上げる桜島を間近に見上げ、地域住民が抱える畏怖の念に少し触れることができました。

災害支援ナースの活動は発災後 3 日目からとなっていますが、主催の鹿児島市と協議の結果、今回は発災直後、避難所に避難してきた住民を対象に健康相談を行いました。住民一人一人の言葉に耳を傾け、慌ただしい中にもしっかりと災害支援ナースとしての役割を果たすことができました。健康相談は活動の一部に過ぎませんが、災害支援ナースにとっては多くの気づきを得る貴重な経験になりました。

関係機関の防災担当者に“看護協会”や“災害支援ナース”という言葉がもっと認知されるよう、今後も活動を展開していきます。

おし  
らせ

## 4

**鹿児島県公衆衛生協会会長表彰を受賞**

鹿児島県看護協会会員である 伊尻環さん（75 歳・助産師）が、平成 25 年 11 月 25 日、鹿児島県庁で、鹿児島県公衆衛生協会会長表彰を受賞されました。

おめでとうございます。

伊尻さんは、助産師として県立病院等に勤務後、県看護協会訪問看護ステーションの初代管理者であり、現在も「花野訪問看護ステーション」の所長として 10 数名の訪問看護師のオーナーでもあります。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

おし  
らせ

## 5

**鹿児島県看護協会名誉会員の方々より**

平成 25 年度鹿児島県看護協会名誉会員の方々より、お心遣いをいただき、プリザーブドフラワーを購入いたしました。ガラスケースに入っていてとてもきれいです。

鹿児島県看護研究会館 1 階受付横に飾っておりますので、是非ご覧になってください。



## 平成25年度

# 看護職のワーク・ライフ・バランス 推進ワークショップ開催



10月8日、9日の2日間ワークライフバランス(WLB)ワークショップを開催しました。本年度は今村病院・今村病院分院・おぐら病院・鹿児島市医師会病院の4施設から27名が参加し、自施設のWLB推進のための手掛かりを探す作業に取り組みました。また昨年の参加施設から、今給黎総合病院が参加しインデックス調査結果をもとに取り組みの評価を行い、WLB推進活動が着実に進行していることが伺えました。他に一般参加を呼び掛けたところ、鹿児島市立病院が参加し多様なワークショップとなりました。

看護協会では、ワークショップに先立ち支援者研修(21名参加)や支援体制の整備を充実させてきましたが、担当支援者による施設支援が効果的に働き、より有益なワークショップとなりました。

《 WLB推進委員長：原田ゆう子 》

### 《 鹿児島市医師会病院 》

平成25年度ワークライフバランス推進事業に参加することになりました。インデックス調査結果で、中堅看護師が仕事と生活に満足していない現状などが明らかになり、“どげんかせんないかん!”という気持ちに駆り立てられ、第1回のワークショップに臨みました。個別ワークではKJ法で分析を行い、途中行き詰まる事もありましたが、ファシリテーターの方々には助言を頂き、問題点の整理と課題の抽出、優先度を明確にすることができました。今回のワークには、事務部も参加し一緒に取り組み、チーム名を彼の名をもらい“チーム進一”としました。「10日間は自分たちのWLBは忘れてください」の言葉通り、参加メンバー丸となりアクションプランを練り、「いきいきと笑顔で元気よく働き続けられる環境になる」を始め、「超過勤務の減少、就業規則の周知、有給休暇取得率をあげる」の4項目を3年後のゴールに掲げました。その第一歩として、全看護職員へのWLBの周知を図るため、看護部長による説明会を開催し、並行してチームメンバーの選抜、現状分析を行っています。3年後には、“ここを選んで良かった!”と言ってもらえる職場になるよう、取り組んでいきたいと思えます。

担当：副看護部長 脇 和代



グループワークの様子



### 《 今村病院 》

今村病院では、4年後の病院統合問題による将来構想への不安やキャリアアップシステムの不備があるためか看護師のやりがい感が低下し、離職率の上昇が著しい現状があります。この現状を把握・分析し改善策をたて取り組むことで、看護師の満足度向上と離職率の低下を図り、看護師定着に繋げていきたいと考えワークショップに参加しました。

インデックス調査の結果を分析しながら、ショックを受けたり、やはりそうかと納得したりと様々な反応がありました。その中で、20代後半から30代のモチベーションが下がっていることが明らかになりました。『絶対、この数字をかえてやる』をキーワードに取り組んでいきたいと思えます。

副看護部長：大角ゆかり



## 《 社会経済福祉委員長：東浩子 》

台風の影響が心配されるなか、参加予定施設が無事に揃いWLBワークショップ2年目のスタートを迎えることができました。午前の講義は「WLBの基本」を小村由香氏、「WLB施設の導入事例」を竹中君夫氏、「WLB推進と労働法規」を稲富正則氏、昨年の参加施設から「WLB推進事業実態報告」を赤坂和代氏が話され、充実した研修になりました。午後からは助言を受けながらインデックス調査を基に個別グループワークを行いました。やや自由意見が少なく今後の課題と感じました。



垂水市医療センター垂水中央病院  
赤坂和代さんの熱のこもった事例報告



鹿児島市立病院のみなさん

## 《 今村病院分院 》

看護師の離職率が高く、離職防止に向けての取り組みを強化したいという思いからワークショップに参加しました。

6月に行われました看護師へのインデックス調査では回収率が低く、真に職員の状況を反映しているか心配しながら取り組みを開始しました。職員の認知度の低さやレーダーチャートが全体に広がりがない等の結果がわかり、ガックリしましたがこの結果が現状であることを再認識し、これからの取り組みを前向きに検討していくことを決意しました。

今回のWLBへの取り組みは、院内の看護部だけではなく他の職員も巻き込み病院全体でWLBを考える機会を作りワークショップへ事務、薬剤師、栄養士、リハビリの職種を含み参加しました。課題が山積みですがご指導を頂きながら院内への進捗状況をWLBの委員会を中心に広めながら3年後のゴールを目指します。

看護部長：藪下和代



今給黎総合病院のみなさん



今村病院分院のみなさん

## 《 おぐら病院 》

2013年7月におぐら病院は、小倉記念病院とおぐらリハビリテーション病院という2つの病院の機能が集約して誕生、「急性期医療」と「リハビリテーション医療」の両方を併せ持つ216床の施設です。基本理念に、『恒に信頼される質の高い医療・介護を提供し、地域社会に貢献します』を掲げています。

看護師不足が全国で起こっている中、経営改善が強いられています。「働き続けられる職場づくり」を構築することで、人の集まる病院を目指したいと思います。

ワークライフバランスの推進を事業方針に掲げ、病院として積極的に導入することで、職員の働きやすい環境を作り上げ、職員の職務満足度が向上することを期待しています。今回、看護職を始め、事務部門、コメディカル部門がワークショップに参加することで、病院全体に周知を図ると共に、今行っていることに加え、さらに当院に適した対策があるのか模索していきたいと思ひます。

看護部長：下仮屋道子



おぐら病院のみなさん

# 心に残る 看護体験



鹿児島こども病院  
看護師  
田畑 彩乃

小児看護に携わり4年が経ちました。私が2年目の頃、1型糖尿病の血糖コントロール不良で入院された少女に出会いました。10才ながら血糖測定・インスリン注射を慣れた手つきでこなし、明るくしっかりした子という印象でしたが、普段は保健室で皆に知られないように血糖測定やインスリン注射を続けている事、体調を気遣い大好きな体育も思いきり走れない事、「何で、いい子にしてるのに」と少女はポツリと言いました。子どもでも笑顔の裏で皆と一緒に出来ないもどかしさや寂しさ、怒り、悲しみなど様々な気持ちと闘っている事を知り、私は「沢山頑張ってるんだよね」と言って頭を撫でる事しか出来ませんでした。それから出来る限り病室に足を運んで色々な遊びや話、注射も一緒にしたりしました。退院時に手作りのパンフレットと血糖表を渡すと、「大好き。ありがとう」と書いた手紙と内緒で作ったビーズのブレスレットを私にくれました。わずかでも少女の支えになれた喜びは今も忘れられません。ブレスレットを見る度に少女の頑張る姿を思い出し、私の励みになっています。今後も子どもの心に寄り添う姿勢を大切に、愛情の伝わるケアを提供出来るよう努めていきたいです。



鹿児島こども病院  
看護師  
濱田 佳代子

Aちゃんの疾患は幼少期に発症し、16年間入院生活を送っています。お母さんは後悔の念が強く、「何かあったら…」と現状を変えることに抵抗がありました。お母さんの「うちに帰ってみようかな」の一言から始まった自宅への外出。多くの不安や迷いがあったと思います。外出時間は3時間程度。車での移動、呼吸器のセッティングなどに時間を取られ、落ち着いたのはひとときでした。Aちゃんはと言うと…よく眠っていました。お父さん、お母さんは落ち着かないかな？けれどその表情はいつもより柔らかい感じがしました。茶碗を洗う音やご家族の話し声などAちゃんの耳に懐かしい音が響き、懐かしい空気を肌に感じていたと思います。病院に戻ったお母さんは少し疲れていましたが「不思議で、夢のような時間だった」「なかなか一歩が踏み出せない。背中を押してもらえた」とおっしゃいました。とても複雑な心境だったと思いますが、このように言ってもらえて嬉しかったです。この外出で多くのことを考えさせてもらいました。安心して一歩が踏み出せ、一緒に歩んでいける看護の提供ができるように、これからも一人一人の患者さんとの出会いを大切にしていきたいと思います。

## 心に残る 看護体験



医療法人全隆会  
指宿竹元病院  
看護師  
黒岩 久美

看護師として就職後、帰鹿に伴い精神科病院へ勤務して 15 年になります。外来を経験後、アルコール依存症専門病棟へ配属され、毎日が緊張の連続でした。否認の病気と言われるアルコール依存症の患者様に、対応が出来ずに困ったことも多くありました。ある夏「家のことが心配で仕方がない」と繰り返し訴え、治療に専念できずにいる入院患者様がいました。時には、声を荒げて、表情も硬く看護師の話は耳に入らない状況で、話をするのが怖くなり、仕事に行くのを辛く感じていました。しかし、先輩看護師の笑顔の挨拶、傾聴、共感しながら対応する態度を見て真似してみました。毎日笑顔で挨拶を続けると、患者様からも話しかけて下さいました。そして、依存症の治療プログラムである内観療法を体験された患者様は、この時期を境に家族への感謝の言葉が話されるようになり、その表情を今でも忘れることはできません。退院時、一通の手紙を渡された中に、「いつも笑顔で話を聴いてくれて有難う。毎日が感謝と思い大事に生きていきます。」と記してありました。

内観を体験した私自身も、自己の振り返りを忘れず、患者様の自分らしく生きる手助けをしていけるよう努力したいと思います。



医療法人全隆会  
指宿竹元病院  
看護師  
元脇 充

私が看護師になって 11 年が経過しました。

精神科に勤務し、これまでに様々な精神疾患を持たれる人たちと接してきました。その中で、私がまだ看護師として間もないころ患者様に助けられた出来事がありました。それは、閉鎖病棟に勤務していた時、ある患者様が夜間禁煙であることに対して不満を言ってきた時のことです。自分なりに説明しましたが、なかなか納得は得られず患者様はタバコが吸えないことに興奮されてしまい、どうすることも出来ず困っていた時、別の患者様が「そいつを（私）困らせるな、タバコは吸えないよ」と言ってくれました。その一言がきっかけで、他の患者様からも同じような声上がり、不満を言っていた患者様を納得させてくれました。

自分がしっかり説明出来なかったことに力不足を感じました。それと同時に患者様に助けられたこと、私が患者様を観て看護していたつもりでしたが、実は患者様が私を見守り育ててくれていたと気づきました。

この出来事が、患者様とコミュニケーションを図り信頼関係を築く為の私の原点となっています。初心を忘れず、常に患者様に寄り添う看護をしていきたいと思えます。

### ～お知らせ～

2010 年 10 月よりスタートしました「心に残る看護体験」も今回をもちまして終了させていただきます。原稿を提供していただいた看護師のみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。

次年度からは新コーナーをもうけています。お楽しみに。

広報委員より

# ナースセンターだより



## 再就業支援セミナー報告

～再び、看護職で働くために！～

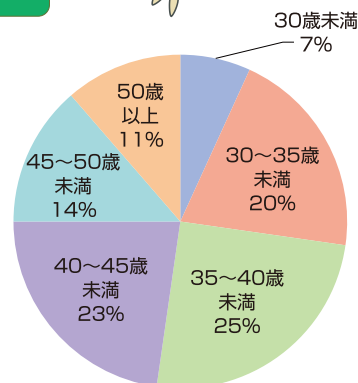
開催期間：鹿児島地区(11月5日～21日) 大隅地区(11月26日～12月4日)

ナースセンターでは、ブランクのある看護職の方々を対象に、復職を支援するセミナーを年1回開催しています。今年は鹿児島地区に加え大隅地区(鹿屋市)でも開催し、鹿児島地区28名、大隅地区16名、合計44名が受講しました。

最新の医療や看護について学び、病院・老人保健施設・訪問看護ステーションでの実務研修(1日間)は、受講生にとって再就職に向けての貴重な体験となりました。ご協力くださった施設の皆さまには、心から感謝申し上げます。

受講生の離職期間および経験年数(※就業中の8名を除く)

	1～3年 未満	3～5年 未満	5～10年 未満	10～15年 未満	15～20年 未満	20年以上	合計
離職期間	3	3	13	11	4	2	36
経験年数	5	6	15	9	1	0	36



受講生の年齢構成



看護技術演習の様子

### 受講生の感想

- ◆スタッフの皆さんに励ましの言葉をいただき、気持ちを強く持つことができたように思います。勇気を出して働いて、学びたいです。
- ◆一日患者さんと関わってみて、患者さんの「ありがとう」の一言で目が覚めました。看護の道を選んだきっかけを思い出し、復職したい気持ちがより強くなりました。
- ◆働くスタッフの姿を見て、長いブランクはありますが、もう一度頑張ってみようと思いました。
- ◆基礎的な看護技術、知識について勉強不足を感じた。次につなげていく為に、しっかりと自己学習していきたい。

### <受講生アンケートより>

受講生の8割以上が、1年以内の就業を希望し、勤務形態では非常勤希望者が約7割と最も多く、常勤2割、その他1割でした。

再就職にあたって不安なこと(自由記述)については、「家庭と仕事との両立」を上げる方が最も多く、「知識と技術の不足」「医療機器や電子カルテ」「人間関係」など、様々な不安を抱えていることがわかりました。

### <実務研修施設からのメッセージ> ～施設アンケートより～

- ◆ブランクはスタッフ全員でサポートします。就職される日が訪れることを期待しております。
- ◆受講生と接する中で、改めて初心に戻ることができ、私にとっても貴重な時間となりました。
- ◆看護のライセンスを眠らせることなく、少しでも何らかの形で社会貢献できるといいですね。
- ◆自分のやりたい看護を選択しながら、就職先を選択して頂ければと思います。
- ◆ブランクがあると心配なこともたくさんあると思いますが、仲間がいるので大丈夫です。一緒に頑張りましょう。



皮膚・排泄ケア講義の様子

## セミナーで託児を始めました!

今年度は、再就業支援セミナー開催中に託児を実施し、13名の子どもたちが利用しました。

初めて託児を利用する方が多く、最初は不安な子ども達でしたが、託児スタッフの方と一緒に元気に遊んでいました。

御協力くださった皆様、ありがとうございました。

再就業に向けて、親も子も一歩を踏み出しました!



元気いっぱいな子ども達

## ◆鹿児島県ナースセンター◆

[看護師等無料職業紹介所 46-ム-010002]

住所：〒890-0064

鹿児島市鴨池新町 21-5

電話：099-256-8025

FAX：099-256-8079

E-mail：kagoshima@nurse-center.net

受付時間 月～金(祝祭日は除く)

午前9時～午後4時まで

ネットで求人・求職 e-ナースセンター

<http://www.nurse-center.net>

(類似のサイトにご注意ください)

元気と笑顔、こころと絆で生活・療養を支援する 訪問看護

平成 25 年度 訪問看護研修ステップ1 研修報告

平成 25 年 6 月 3 日～ 11 月 16 日まで第 32 回訪問看護研修ステップ1が開催され、24 日間 180 時間、25 名の方が受講されました。(これまで 833 名の方が修了) 知識・技術習得のためや看護のスキルアップのため、受講の必要性を感じた、今後、訪問看護に従事したい、ネットワーク作りのためなど動機は各々ですが、講義や実習を通して貴重な体験をし、新たな課題を見つけて修了されました。

修了生は地域の看護を支えるプロとして、思いに耳を傾け、寄り添い、元気と笑顔、こころと絆で生活・療養を支援する訪問看護師として安心・安全なサービスを提供する在宅ケアの力となって今後、ご活躍を期待致します。

又、訪問看護推進のためにご指導頂きました講師の方々、実習を引き受けて下さいました施設の皆さまには心から感謝申し上げます。

<講義・研修について>

- ◆訪問看護の素晴らしさを周囲にも周知していきたい。
- ◆スキルアップにつながり、知識を深める機会になった。
- ◆業務との両立は大変であったが、盛り沢山であったという間に過ぎた。広報活動していきたい。
- ◆つながる中間作りが出来た。楽しかった。
- ◆専門的な知識や技術を学べたことが勤務に活かされている。
- ◆不安だったことが少しづつ軽減。前進できた。
- ◆いろんな部署の方から、情報が得られた。考え方や看護に対する姿勢を学べた。他の受講生から学ぶ点が多かった。

受講生の感想

<実務研修について>

- ◆地域での看護師の役割と予防の大切さを知った。
- ◆在宅で見るのは利用者だけでなく、家族も対象だと理解できた。生活の中での看護の実際を学べた。
- ◆グループホームではスタッフが同じ目標を持つ事で利用者が安心してた。使用者の生活を知る事が出来た。
- ◆地域包括ケアシステムの大切さを知った。
- ◆予防支援や社会福祉士の役割について学べた。健康づくりがいかに介護予防につながるかを学ぶ。
- ◆学んだことを実際に活かした。
- ◆同行して違う手技も学ぶことが出来た。



25年度修了生



<訪問看護フォローアップ研修報告>

10月26日(土)に開催され22名の方が参加されました。

1) 訪問看護の現場で生かせるフォトセラピー  
～フォトケアの実際～

講義 テーマ 講師：訪問看護ステーションかりん 管理者 森 恵先生

2) ストレスの仕組みを知って付き合おう

講師：鹿児島メンタルヘルス研究所 ハートピース 産業カウンセラー 大重 和枝先生

<参加者の感想>

- ◆写真を通してその方の思いを知ることが出来るという事を学ぶ。
- ◆写真を使った回想法の大事さを感じることが出来た。
- ◆自分のストレスについて気づくことが出来た。とても大切だと思った。
- ◆ストレスをなくするのではなく、上手に付き合っていきたい。
- ◆ストレスの解消法、対処法、考え方、他の方の意見を聞いて良かった。
- ◆充実した一日だった。心の負担が軽くなった。感じて動くことが大切な事だと思った。

平成 26 年度  
ふれあい看護体験 施設募集!

看護の心をみんなの心に

ふれあい看護体験とは、病院・施設が地域住民を対象に、見学や簡単な看護体験を通して、「看護の仕事」について知ってもらうイベントです。



5月12日は  
看護の日

来年度の、ふれあい看護体験の実施施設を募集します。ぜひ看護の扉を若い世代の子どもたちを開いて下さい。



平成25年度  
体験者数  
**528名**  
実施施設数  
**45施設**

\*詳しくは、ナースセンターまで お問い合わせ下さい

申込締切 **2月21日(金)まで**

鹿児島県の求人・求職登録状況(9月～11月分)

(人)

	有効求人数					有効求職者数					就職者数				
	保	助	看	准	計	保	助	看	准	計	保	助	看	准	計
9月	20	6	344	20	390	13	2	113	16	144	1	1	26	4	32
10月	22	5	383	17	427	12	1	116	11	140	1	0	23	1	25
11月	15	2	355	15	387	12	2	119	18	151	1	0	13	1	15

# 理事会 報告

平成25年11月16日(土) 16名出席

## ◆ 協議事項

### <基本方針>

- 1 鹿児島県看護協会活動の中長期計画について
- 2 平成25年度重点事業の中間評価及び平成26年度重点事業について
- 3 常任委員会及び特別委員会について
- 4 職能理事及び職能委員について

### <事業推進に関する事項>

- 1 各委員会における中間評価及び平成26年度事業計画の様式について

### <管理的事項>

- 1 諸規則の制定及び改訂関係
  - (1) 文書管理規程の制定について
  - (2) 公印管理規程の制定について
  - (3) 顧問弁護士の設置について
- 2 その他

## 鹿児島県看護協会事業検討会を開催しました。

去る、平成25年12月14日(土)、鹿児島県看護協会事業検討会を開催しました。出席者は理事17名、常任・特別委員会委員長12名 計29名でした。



毎年、常任・特別委員長会は開催しておりましたが、理事全員を含めての会は初めてでした。平成25年度の中間評価及び平成26年度の事業計画等について情報交換等ができ、中身の濃い会議となりました。

- (1) 平成25年度上半期予算執行状況及び監査報告について
- (2) 平成27年度 県看護協会通常総会の開催日について
- (3) 日本看護協会名誉会員及び日本看護協会長表彰者の推薦について
- (4) 消費税率引き上げに伴う県看護協会の対応について
- (5) 研修会館2階和室の改修について
- (6) 日本看護協会地区別法人会員会での主な協議事項について
  - ① 看護の将来ビジョンの策定について
  - ② 会員情報管理体制の改善の検討について
  - ③ 在宅医療・介護連携の推進について
  - ④ 特定行為に係る看護師の研修制度について

## ★ 報告事項

### <事業推進に関する事項>

- 1 新規事業等について
- 2 新人看護職員合同研修の実施計画について
- 3 再就職支援セミナーの実施について(鹿児島・大隅)
- 4 ワーク・ライフ・バランス推進事業ワークショップの実施について
- 5 助産師出向支援モデル事業について

### <管理的事項>

- 1 県公益法人検査の結果について
- 2 加入促進に係る新規加入者及び看護部長を対象としたアンケート調査の実施について

### <その他>

- 1 地区別法人会員会について
- 2 障害のある人もない人も共に生きるかごしまづくり条例の制定について
- 3 臓器移植ネットワークについて

毎回、日本看護協会理事会報告、職能委員会報告、地区報告・地区理事会報告を口頭で、前回開催の理事会議事録・運営委員会議事録、各委員会報告・他団体会議報告・県外出張報告を书面で行っている。

## 会員の訃報

会員2名の方が亡くなりました。会長名で、各1万円ずつ弔慰金を差し上げました。心からご冥福をお祈り申し上げます。  
山下真抄子様(享年57歳)  
花田 泉 様(享年56歳)

レンブラントホテル鹿児島のレストランご利用10%割引特典は、引き続き延長いたします。

ご利用の際は、会員証のご提示をお願いします。

レンブラントホテル鹿児島

〒890-0064 鹿児島市鴨池新町22-1 TEL 099-257-2411

2014年  
6月30日  
まで

## 編集後記

あけましておめでとうございます。

今年も「看護かごしま」をよろしく願いいたします。今年には県内看護師のみなさまの向上につながるような内容に取り組んでいきたいと思っております。

新コーナーも開設いたしますので、お楽しみに。



看護専門職として  
社会に貢献しよう



会員の増加と福祉の  
向上のため活動しよう

公益社団法人  
鹿児島県看護協会

鹿児島市鴨池新町21-5  
TEL.099-256-8081 FAX.099-256-8079  
URL http://k-kango.jp  
E-mail kakankyo@orange.ocn.ne.jp